

## 【当日のスピーチ以外で以下の団体からコメントを頂きました】

### 初級1位・中級1位：生活協同組合コープさっぽろ様

食品表示検定試験の開始以来、コープさっぽろでは資格の取得を進めてきました。当初は仕入れ部門である商品部バイヤー（中級資格）や店舗の責任者である店長（初級資格）を中心にスタートしましたが、その後食品表示検定のテキストを使って体系的に学習することが実務上で大変役に立つことが実感できましたので、取得対象を全店の部門責任者まで拡大しています。

現在、中級試験は商品部、品質管理部門、初級試験は店長、副店長、部門責任者を対象としており、のべ合格者は初級527名、中級114名となりました。店舗での野菜、果物、魚介類、肉類などの生鮮品のPOPやラベル表示、生鮮・惣菜部門の店内加工品の表示は正しくわかりやすいことが重要です。現場ではパートナーさんやアルバイトさんが表示に関わって仕事をしています。部門のメンバーに正しい表示の指導や教育を行ううえでも、部門責任者が正しい表示の知識を身につけることは重要だと考えています。なお当組合では表示検定資格取得者に対して受験料の補助を実施していますが、最近ではパートナーさんが自主的に受験を希望されることも増えてきました。表示の学習のモチベーションをあげる意味でもこの検定が役立っていると思います。

### 初級3位：株式会社サンエー様

食品の販売では、「安心安全であること」を最優先して取り組んでいます。食品表示はお客様がその食品の情報を得るための唯一の手段となるため、正確な情報を提供しなければなりません。社内で「正しい表示」をすすめる上で「食品表示検定」は、時宜を得ていました。

当社では、初級試験は店舗の品質管理者、食品店長、部門担当者に受験を進めており、中級試験は本社の品質管理室、営業部のバイヤー、トレーナー、食品加工センターを対象としています。回を重ねるごとに受験希望者が増え、合格者は次の級にチャレンジし、食品表示の学びを深めています。

店舗の青果、精肉、鮮魚、惣菜売り場では、ポップや商品ラベルを作成し、お客様に食品の表示を行っています。また、店舗の品質管理者は売場の表示のチェック業務を行っており、初級試験の学びは即業務に活用することが出来ます。食品表示を知ること、食品の知識を持つこともでき、お客様への接客にも活かしています。

本社の営業部、食品加工センターでは食品表示を作成しており、新商品登録時や仕様変更時は間違った表示の商品が店頭にならび、お客様に迷惑のかかる事がない様に、社内でチェック体制をとっています。食品表示の専門知識を得て正しい表示を行う事は、必須条件となります。

表示教育を行う品質管理室は、全員中級試験に合格し、第1回目の上級試験では2人合格しました。教育では知識だけではなく、なぜ正しい表示を行うのかといった意識教育も重要視しています。今後は社内だけでなく、社外お取引メーカー様にも食品表示検定の情報発信をしていきます。

**初級5位 : フジパン株式会社 様**

現在、弊社には表示を専門に行う部署があります。

そこに在籍している人、また、グループ企業内で原材料表示に関心がある人たちが初級・中級・上級を受験してきています。

基本的に食品表示検定認定テキストを基にその勉強をしています、「なるほど!」と思うことが数多くあります。初級・中級の勉強時には、通常の仕事の中であまり扱うことのない食品の表示について初めて知る機会、また、表示についての必要な幅広い知識を得ることが出来ていると思います。それぞれの試験に挑戦する度に、知らなかったことがどんどん出てきて、品質表示基準、食品衛生法等などでは得られない知識を補う事が出来ていると思います。

特に、上級試験は論述形式や表示の確認、作成の問題があります。記述問題はマークシート問題よりもより正確に理解できていないと解くことができない為、受験者の知識の確認に大いに役立っているのではないのでしょうか。

試験という目的がないとなかなか勉強できない事もあると思いますが、この試験を通して改めて勉強し直すことができるということが大きな目標になっていると思います。

今後も、表示に関する知識習得を怠らないようにし、消費者の方々に正確で分かりやすい表示作成を考えています。